授業科目	簿記演習					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	寺井　泰子						
授業概要	企業の経済活動を記録・計算・報告する一連の行為を会計といいますが、簿記はその会計の中で主として記録に関わる知識・技能です。 簿記会計の知識を備えていることは、企業においても、個人で事業を営むにしても、有用であると考えます。 そこで「簿記演習」では「簿記入門」で学習した項目を土台として、帳簿の記帳方法や決算整理事項を中心に学習し、試算表や精算表・財務諸表の作成方法の習得を目標とします。 意欲の高い方は簿記検定試験の受験を推奨します。						
授業形態	講義・演習			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	・期中の取引から仕訳ができる。 ・期中の取引から適切な伝票を選択することができる。 ・簡易な試算表の作成ができる。 ・決算整理事項から仕訳を考えることができる。 ・精算表作成・財務諸表の作成ができる。
理想的レベル	・期中の取引の仕訳を行い、総勘定元帳へ転記ができる。 ・補助簿等を作成できる。 ・各種試算表を作成できる。 ・決算整理事項から精算表・財務諸表を作成することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	30%	テキスト CH9～12、配布プリントを範囲として実施予定
小テスト	30%	テキスト CH7・8、配布プリントを範囲として実施予定
レポート	30%	授業で実施する単元ごとの確認テストをレポート点として評価
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	EN31402J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
（予習）授業の該当する箇所のテキストを読み、疑問点などをノートにまとめる。 （復習）配布プリントなどを参考に演習問題をとく。	4

授業計画

第 1 回	オリエンテーション及び講義 ・簿記演習の目的・狙いについて ・「簿記入門」科目の復習
第 2 回	帳簿の理解（テキスト CH7） ・主要簿と補助簿について ・仕訳帳と総勘定元帳について ・転記について
第 3 回	帳簿の理解（テキスト CH7） ・補助簿について ・帳簿の書き方（記帳方法）について ・現金出納帳・当座預金出納帳および小口現金出納帳にの記帳方法について解説及び演習
第 4 回	帳簿の理解（テキスト CH7） ・補助簿について ・帳簿の書き方（記帳方法）について ・仕入帳・売上帳、受取手形記入帳・支払手形記入帳の記帳方法について解説及び演習
第 5 回	帳簿の理解（テキスト CH7） ・補助簿・補助元帳について ・帳簿の書き方（記帳方法）について ・補助簿・補助元帳の記帳の演習
第 6 回	試算表の理解（テキスト CH8） ・試算表について ・合計試算表・残高試算表について解説及び演習
第 7 回	小テストの実施（CH7・8、配布プリント） 1 回～6 回までの講義の内容を範囲として小テストの実施
第 8 回	伝票の理解（テキスト CH9） ・各種伝票について復習 ・解説および演習
第 9 回	伝票の理解（テキスト CH9） ・仕訳日計表の作成方法について ・解説および演習
第 10 回	決算手続Ⅰの理解（テキスト CH10） ・決算について ・決算手続の一連の流れについて ・精算表について
第 11 回	決算手続Ⅱの理解（テキスト CH11）

	・決算整理事項について ・決算時の現金過不足、現金、消耗品及び引出金の処理について解説及び演習
第 12 回	決算手続Ⅱの理解（テキスト CH11） ・決算整理事項について ・決算時の貸倒引当金の設定、固定資産の減価償却及び固定資産の売却について解説及び演習
第 13 回	決算手続Ⅱの理解（テキスト CH11） ・決算整理事項について ・決算時の売上原価の算定及び費用・収益の繰延べと見越しについて解説及び演習
第 14 回	決算手続Ⅲの理解（テキスト CH12） ・精算表について ・財務諸表について
第 15 回	まとめの試験
テキスト	書名：みんなが欲しかった簿記の教科書　日商 3 級　商業簿記　最新版 著者：滝澤ななみ 発行：TAC 出版
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	現代の簿記論 篠原淳、古市承治、梅田勝利　編著 税務経理協会　2,640 円 ※購入希望者は担当教員まで問い合わせてください。
課題に対するフィードバックの方法	・小テストの正答を公開する。 ・授業の中で実施する単元ごとの理解度確認テストを都度、解説する。
学生へのメッセージ・コメント	当該科目は「簿記入門」科目の応用となりますので、「簿記入門」履修済みの方や簿記検定受験予定・経験者に履修をお勧めします。 意欲が高い方は簿記検定試験の受験を推奨します。